

平成 29 年度プロジェクト研究実績報告書

【研究課題】	ソーシャルスキル・トレーニングのスキルアップを目指したビデオ教材開発
【研究代表者】	松下 孝太郎（東京情報大学・教授）
【研究分担者】	内田 治（東京情報大学・准教授） 原田 恵理子（東京情報大学・准教授） 松崎 拓（東京情報大学・総合情報学部4年）
【研究報告及び成果の公表等】	
<p>本研究は、高校生のためのソーシャルスキルの向上を目指すソーシャルスキル・トレーニング（SST）におけるビデオ教材の開発を目的とした。これまでの SST では、ビデオ教材を用いてスキルのポイントを示すモデリングではなく、授業者や TA が直接生徒に見せるモデリングが中心であった。しかし、授業者によってはポイントを適切に表現できない、伝え忘れてしまうことがありモデリングが適切にできない場合も少なくなかった。そこで、そのような状況を改善する一つの方法として、モデリングをビデオで行うためのビデオ教材の開発を行った。まずは、モデリングビデオの内容の信頼性と妥当性を検討することを目的に第 1 研究を行った。そのモデリングビデオの内容の検討と演出・作成については、芹沢（2017）と共同で開発した。ターゲットスキルは初歩的スキルの「聴くスキル」とし、スキルのポイントをおさえたモデリングビデオを大学生演出のもと作成・編集した。そのモデリングビデオの内容について、大学生 20 名を対象に 2017 年 11 月にモデリングビデオを視聴させて評価を行ったところ、概ね肯定的な評価を得ることが出来た。つまり、スキルのポイントをおさえたビデオであることが実証される結果となった。そしてこのビデオを用いた SST を教職課程 1・2 年生 20 名に対して実施し、ソーシャルスキルにどのような影響があるかについて検証した。授業前後において「社会的スキル尺度」を用いた結果、向社会性が向上し、引っ込み思案行動と攻撃行動の減少という結果を得ることができた。モデリングビデオを用いた SST はソーシャルスキルを向上させることが示唆された。</p> <p>次に、第 2 研究として、作成したビデオを用いて公立高等学校の総合的な学習の時間における道徳の時間で SST 実施した。ガイダンス、コミュニケーションスキルⅠ「話すスキル」、Ⅱ「聴くスキル」の 3 回を 2 学級の生徒（モデリングビデオによる実践群：40 名、未使用の統制群：40 名）に対して 2018 年 1 月下旬に実施した。実践前後に質問紙調査を行い、「ソーシャルスキル」と「自尊心」の尺度で効果測定をした。授業者は担任、TA には教職課程の学生で授業を行った。これらの研究は、2018 年 5 月以降からデータ入力及び分析・考察を行う予定にある。</p> <p>なお、現段階における研究の成果については、卒業論文（芹澤，2018；松崎，2018）にまとめられ、第 1 研究は、ISPA 2018 Tokyo (International School Psychology Association) (7 月東京成徳大学) にエントリーしており(論文名:Using modeling video for social skills training)、第 2 研究の結果は、教育実践学会 (12 月東京情報大学) で発表し、その後論文投稿を計画している。</p> <p>引用文献 芹澤裕貴 (2018) ソーシャルスキル・トレーニングにおけるモデリングのビデオ教材研究 (未刊行) 松崎 拓 (2018) ソーシャルスキル・トレーニングにおける映像開発と効果の検証 (未刊行)</p>	